

日本共産党品川区議会議員

菊地貞二

週刊区政ニュース第349号

07年11月11日発行

資料も渡さず工事説明会

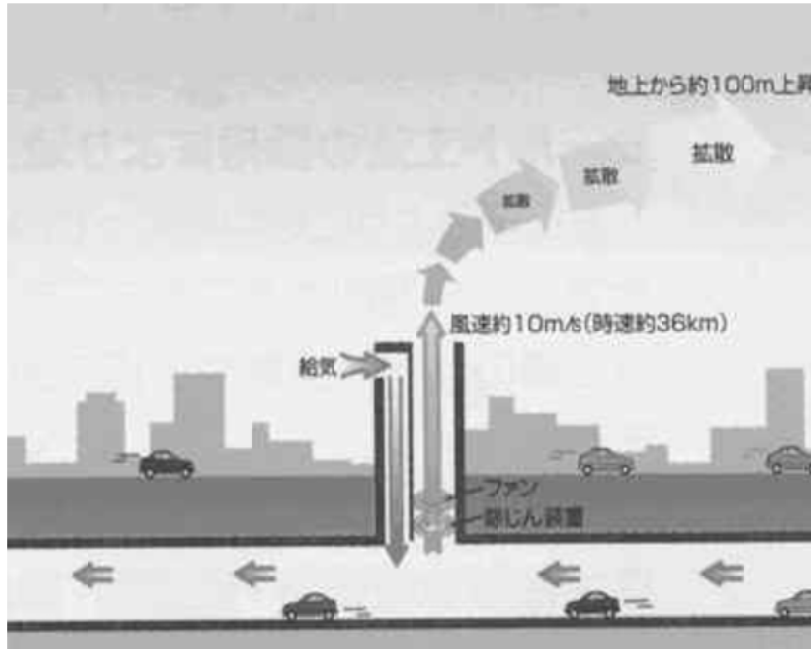
東京都「町会にもきめ細かく説明してきた」

東京都は「あくまでも準備工事説明会なので換気塔（30m）の2倍、60m範囲に告知した」と述べています。しかし、参加をされたみなさんの多くが共産党のお知らせを見て初めて知ったというばかり。東京都は「町会を通じてきめ細かに説明してきた」と強弁しましたが、参加者から「自分は町会の役員。そんな話は聞いたこと



↑南品川換気塔予定地（手前は駐車場、奥が森井電業）

←トンネル内のNOX、CO2などが排出



がない。町会説明会の参加人数は？」との質問に答弁をはぐらかし「自分は町会の役員。そんな話は聞いたこと

「○○町会は○月○日に6名、○○町会は○月○日に4名」と答弁したが、追及を受け、呈しました。

しかも、工事時間、

説明ではなく通告 都の不遜な態度に怒りの声

11月2日、中央環状品川線の建設工事が進んでいる中で、南品川換気所準備工事説明会が開かれました。参加したのは換気所に近い住民わずかに二十数名。参加者から「説明会を知らせたのか」との声がわきあがりました。

休業日、安全確保の問題、騒音、粉塵など説明すべき内容はスライドのみで参加者にはなんの資料も配布していません。説明する都職員が途中で工事時間がわからなくなるといった失態を演じています。

当然のことながら住民からは工事より汚染対策の問題点を指摘するという説明会となった



ています。

説明するという立場ではなく住民に「通告」するという不遜な態度で臨んでいることはこうした事実関係から明らかです。

民間機関の研究でも汚染は明らか

住民からは改めて「除塵装置だけではな



く、脱硝装置の設置を確約すべき」との要望が渦巻きました。これに対し東京都は「換気所設置工事の設計には脱硝装置が付けられるようになっている。開通後の事後アクセスで環

境悪化が認められれば設置する」とした従来の答弁に終始しています。

新宿線の落合換気所をモデルにして換気所からの汚染物質拡散調査をおこなった環境総合研究所によると、東京都が換気所から排出される汚染物質は住民への影響は少ないとしている問題について

「アクセスの手法ブルームパフモデルはいたるところで同じ方向、同じ強さに風が吹くことが前提。建物や地形を



考慮していない。現実にはありえない設定となっている。当研究所がおこなった3次元流体モデルは、1km四方の建物や地形を考慮したもので実態に近いものと強調。原野の換気塔ならいざ知らず、各換気所周辺はマンションが林立し、その影響は計り知れないといっています。

大気汚染の不安が広がっているのにまともな調査もせず「排ガスは拡散・希釈され問題ない」を繰り返す、東京都のやり方は無責任なものです。

日本共産党はみなさんと一緒に「環境守れ」の運動を強化してまいります。

無料法律相談会 (生活相談は随時)

とくろ すずらん通り事務所

日時

11月28日(水)
午後6時～8時



03-3463-7421 (03-3463-7421) 03-3463-7421